



西川 周作 選手

江原 大輔 議長

神坂 達成 副議長

トピックス

浦和レッドダイヤモンズ 西川周作選手が 市議会訪問！

浦和レッズのゴールキーパー西川周作選手を迎え、江原大輔議長と神坂達成副議長が、さいたま市への熱い思いなどを聞きました。



にしかわ・しゅうさく

1986年生まれ。大分県宇佐市出身。日本屈指のセービング技術と世界クラスのキック精度を誇るゴールキーパー。大分トリニータ、サンフレッチェ広島を経て、2014年より浦和レッズに所属。日本代表での出場経験も持つ。2023Jリーグ ベストイレブンおよびフェアプレー個人賞を受賞。現在も進化を続けている。

住みやすく、人があたたかい 家族みんなが大好きなまち

議長 本日はお忙しい中、市議会によるこのようにしゃいました！西川選手は2014年からさいたま市にお住まいとのことですが、率直な感想はいかがですか？

西川 これまで家族でさいたま市で暮らしてきて、すごく住みやすいまちと感じています。人があたたかくて家族みんなが大好きなまちです。

さいたま市は都会に近いけれど、自然や

西川選手は、サッカー選手である一方で、子育て中のパパでもあります。子育てで心掛けていることはありますか？

西川 子どもたちには毎日「今日どうだった？」「何があった？」とたくさん話を聞くようにしています。

プロを目指した中学生の頃から、僕のモットーは「笑う門には福来たる」。子どもたちにも、誰にでも笑顔で挨拶できる素直な人に育ってほしいですね。自分が笑顔になれば、まわりの人も自然と笑顔になって幸せの輪が広がっていくと思いますから。

議長 子どもたちの笑顔は最高ですよ。うちはもう大学生ですが、いまだに「今が一番可愛いな」とハグしています（笑）。小さな頃から「父ちゃんの宝物はお前たち2人だ」と言っていることに言い続けてきました。

西川 めちゃくちゃいいですね！僕らも毎日勉強で。子育ての先輩に見習いたいと思います。

議長 先輩なんてとんでもない！子どもが1歳なら、親も1歳で、子どもに教えられながら、一緒に成長していくんですよ。市民の皆さんが充実した楽しい子育てができるように、60人の議員が一丸となって子育て支援策を拡充させていきたいと思っています。

西川 さいたま市は教育や子育て支援がとも充実していますよね。先生たちも一人

公園が充実していて、ご近所の皆さんにも家族ぐるみでよくしていただいています。ここ数年は、見沼田んぼの田植え体験にも参加していて、僕も田舎育ちなので、子どもたちも、自然豊かな環境で育ててあげたいと思っています。

副議長 私もさいたま市に長年住んでいますが、まったく同感です。西川選手に言っていたら、地元冥利に尽きますね。自然豊かで、アクセスも良く、埼玉も自然豊かです。

議長 まちに出ると、いろんな人に応援の声をかけられると思いますが、西川選手はどう受け止められていますか？

西川 本当にありがたく思っています。よく家族で浦和に出掛けるのですが、そんな時も進んでファンの方と写真を撮っていますね。皆さんへの感謝を忘れずに、一緒に「サッカーのまち」を盛り上げていければと思っています。

副議長 私も憧れのスターとお会いした時の感動はいまだに忘れられません。ファンはうれしいですよ。

西川 僕も、小学生の時のプロのスポーツ選手の訪問がすごく思い出に残っています。だから、子どもたちと積極的に交流したいと思っています。去年は野田小学校の卒業式を訪問したり、埼玉県立小児医療センターの子どもたちにも会いに行くことができました。小児医療センターの子ども

ひとり丁寧によく見てくれているなと感じます。

副議長 さいたま市は、中学生の英語学力が日本一なのが自慢ですが、それは先生方の熱心な指導と、子どもたちが楽しく学べる充実のカリキュラムの賜物です。さらに、さいたま市は0〜14歳の転入超過数が日本一で、子育て世代人気ナンバーワンのもちと言えます。私たち市議会も、子育て世代の期待に全力で応えていきたいと思っています。

ひとりで丁寧によく見てくれているなと感じます。

副議長 さいたま市は、中学生の英語学力が日本一なのが自慢ですが、それは先生方の熱心な指導と、子どもたちが楽しく学べる充実のカリキュラムの賜物です。さらに、さいたま市は0〜14歳の転入超過数が日本一で、子育て世代人気ナンバーワンのもちと言えます。私たち市議会も、子育て世代の期待に全力で応えていきたいと思っています。

さいたま市を愛する心で 安心して住めるまちづくりを

議長 今日は、西川選手のさいたま愛が伝わってきてうれしいですね。さいたま市で生活する中で、何かこうしてほしいなとか市や市議会への要望はありますか？

西川 家族でいろいろと話しかけてきたのですが、「今のさいたま市にすごく満足している」という環境を維持してほしい」という結論になりました。

議長 それはありがたいですね。さいたま市は利便性が高く、災害にも強く、子育てもしやすい。まさに、日本一住みやすいまちですよ。

副議長 今後は市内の交通網をより充実させたり、あとは、防犯面での心配が増えていますので、子どもたちが安心して遊べる環境づくりには、力を入れていきたいです。

たちとは、3年ほど前からオンラインで交流してきましたが、ようやく直接会うことが叶いました。サッカー好きの子にAFCチャンピオンズリーグの優勝メダルをかけたあげたら、涙を流して喜んでくれて、「サッカーを頑張ってきて良かった」と心からうれしくなりました。励ましに行ったりも、僕のほうが励まされてきました。

スポーツを通じて伝えたい 「夢は叶う！」という希望

副議長 今年、2024年でプロ歴20年となりますが、これからの西川選手の夢を教えてください。

西川 再び日本代表として世界で戦うことです！僕は今年で38歳ですが、今こそが全盛期だと思っています。年齢は数字にすぎず、自分次第で戦い続けられることを、同世代の皆さんはもちろん、子どもたちにも伝えていきたいですね。

副議長 やはり日本代表という大きな目標は、ご自身を奮い立たせる強いモチベーションになるんですね。

議長 素晴らしいですよ。私たちは「サッカーのまち」を目指してまちづくりを進めてきましたが、一番大切なのは、選手の方々の活躍を目の当たりにすることで、すべての子どもたちが「夢は叶うんだ！」と希望を持てることだと思っています。

西川 ますます住みやすくなりますね。期待しています！

議長 西川選手とお話して、こんなにも愛情を持っていただいているさいたま市を、さらに安心して笑顔あふれるまちにするために働く勇気をいただきました。これからも私たちは一人ひとりの声に真剣に耳を傾け、134万市民の幸せの実現のために全力で働いてまいります。本日は、素晴らしい時間をありがとうございました。



“ 僕のモットーは「笑う門には福来たる」
笑顔になれば、自分もまわりの人も
幸せになると信じています ”